可相渡事。

一、自然急用有之出入之者候はゞ、様子承屆、五人手形并木札無之候共、末々番所迄送屆可相通事。

卯二月廿五日

前田對馬
奥村河内
奥村因幡
小幡宮内
今枝民部

橋爪御門番中
三之丸御馬廻御番中

覺

一、内破損奉行より焼印之札請取置、夜四に御門を立、内より出候者斷承屆、札可渡遣事。

一、同御門を立、内より出又立歸候者、兩印之札可相渡事。

一、朝番之者御城に罷出候刻、石川・河北兩御門與力番へ前夜請取置候札數改請取、中間泊番之者渡遣候札數と引合、可致吟味事。

右之通念を入可裁許者也。

卯二月廿五日

前田對馬
奥村河内
奥村因幡
小幡宮内
今枝民部

御徒行小頭中

七 御在國中火事之儀御定

覺

一、御城下若火事之刻、火本近候者勿論、程遠候共、御城風下に而氣遣に成候はゞ、二之御丸當番之頭中迄被及案内、頭中被達御聽、被仰出次第、三之御丸早鐘つかせ可被申事。

一、三之御丸早鐘つかせ被申候者、時鐘つき申者に被申渡、時鐘をも早鐘につかせ可被申事。

一、御城中役所々々に罷出候人々、大形出揃申躰に候はゞ、兩所之早鐘可止之旨可被申渡事。

右御改替無之内者、書面之趣可被得其意候。以上。

(寛延三年)庚午八月廿二日

奥村丹後守

三之御丸御番人衆中

八 御留守中火事之儀御定

覺

一、御城下若火事之刻、拙者可致登城候。火本近候者勿論、程遠候共御城風下に氣遣に候者、指圖次第三之御丸早鐘つかせ可被申候。若拙者遲參候はゞ、大年寄中・御家老役中被罷出次第得指圖、鐘つかせ可被申事。

一、萬一火本近、御城危候はゞ、大年寄中・御家老役中、拙者參出不及待合、早鐘つかせ可被申事。

一、三之御丸早鐘つかせ候刻、時鐘つき申者方に早速被申遣、時鐘をも早鐘につかせ可被申事。

一、御城中役所々々に罷出候人々、大形出揃申躰候者、兩所之早鐘可止之旨、至其時可被申渡事。

右前々被仰出候通、可被得其意候。以上。

月　日

奥村丹後守

三之御丸御番人衆中

九 三之御丸より二之御丸へ罷出候者御定

覺

一、石川・河北兩御門より御城に罷通候者は、雖爲御留守中、御昵近之分は不及押札候間、改之可被相通事。

一、足輕・小者其外諸職人等、御用に付罷出候者之儀、如跡々燒印札を以可被相通事。

一、手先之裁許人召連罷出候足輕・小者其外諸職人等は、其奉行斷を聞屆可被相通事。

右は、三之御丸より二之御丸に罷出候者之儀者如是に候。其外就御用御城中に罷通候者、如跡々押紙面を以可被相通候。此趣御番相勤候御馬廻中へ可被申渡候。以上。

(元祿五年)壬申八月廿一日

前田駿河守

御馬廻組頭衆中

燒印札

一、丸之内秦の字　足輕・割場附小者・所々御用懸之者之